



チリ作業員救出

落盤事故から70日目

サンホセ鉱山で13日未明、最初に救出されたフロレンシオ・アバロスさん(中央)。ビデオ映像から(AP)



【コピアポ(チリ北部)＝堀内隆】南米チリ・コピアポ郊外のサンホセ鉱山で起きた落盤事故で地下約700メートルに閉じこめられた作業員33人を引き上げる作業が12日午後11時すぎ(日本時間13日午前11時すぎ)に始まり、最初の1人が救出用カプセルで13日午前0時10分(日本時間同日午後0時10分)に地上に戻った。8月5日の事故発生から70日目。同月22日に全員の生存が分かって以来、2カ月近く

にわたって続いた救出作戦が、最終局面を迎えた。

最初に救出されたのは現場の副責任者フロレンシオ・アバロスさん(31)。33人のリーダー格だったルイス・ウルスアさん(54)が最後になる予定。カプセルを下ろして作業員を乗せ、地表に引き上げる一連の作業は1人あたり約1時間かかるとみられているが、作業がスムーズに進めば24時間で救出が完了するという見方も出ている。